

平成30年 2月19日

君津市議会議長 鈴木 良次 様

きみつ未来 代表 磯貝 清

会 派 視 察 報 告 書

きみつ未来視察報告書を次のとおり提出いたします。

記

- 1 期 日 平成30年 2月 1日（木）から
平成30年 2月 2日（金）まで
- 2 視 察 先 鹿児島県 垂水市・曾於市
- 3 調査事項
(1) 「スポーツ合宿の受け入れ」について（垂水市）
(2) 「元中学校を利用した民間企業による地域活性化事業・たからべ森の学校」について（曾於市）
- 4 参加議員 磯貝清、平田悦子、松本裕次郎、石上壘

以上

鹿児島県 垂水市

日 時：平成30年2月1日（木） 午後2：00から4：00

場 所：垂水市役所、垂水中央運動公園・たるみずスポーツランド

森の駅たるみず（財宝パーク猿ヶ城）・江洋館・道の駅たるみず

出席者：垂水市議会議員 副議長 川越 信夫 氏

垂水議会事務局 局長 田之上 康 氏 議事係 野村 宏治 氏

社会教育課 文化スポーツ係兼国体推進係 係長 美坂 康人 氏

水産商工観光課 課長 森山 博之 氏

水産商工観光課 観光推進係 係長 大迫 隆男 氏

主査 久木田 敬 氏

1. 垂水市の概要について ※（ ）内は君津市

人口：15,399人（85,604人） 面積：162.12km²（318.83km²）

一般会計：117億円（284億円） 議員数：14名（24名）

垂水市は鹿児島県の大隅半島の西北部、鹿児島湾に面するほぼ中央に位置し、広域鹿児島市圏と大隅地域とを結ぶ海上、陸上交通の要衝にあたる。

2. 調査事項について

「スポーツ合宿の受け入れ」について

垂水市では、交流人口増加施策の一つとして「活力と潤いのある個性豊かなふるさとづくり」を目指し、かつ経済的な効果を目的として「大学野球部誘致実行委員会」をH13年1月に設立し、H12年度から関西方面等の大学準硬式野球部の合宿を中心に受け入れが始められた。

その後、H17年7月に幅広くスポーツ合宿を誘致するため「スポーツ団体等誘致実行委員会」と改名し、H24年からは県内の高校サッカーを中心に誘致を開始。実行委員会の構成には市長をはじめ副市長・教育長なども名を連ね、受け入れの際には市長自ら歓迎セレモニーに出席される他、垂水市特産のぶりやかんぱち等の食

糧やスポーツには欠かすことのできない水の特産の飲む温泉水で提供するなど、選手側とすればたまらない特典があり受け入れ数が右肩上がりの状況である。

さらに、市が管理する宿泊施設（指定管理）を持ち、民間の温泉・レジャー施設などと併設しており、合宿での疲労回復に効果を発揮できる環境が整っているほか、野球経験のある方が経営する宿泊施設も合宿の受け入れに対し好意的であり、野球の合宿受け入れを中心に市が管理する宿泊施設と同様に稼働率が高い状況である。

受け入れは、事務局である水産商工観光課が施設管理者である社会教育課と連携し実施している。また合宿誘致活動として、関西方面の旅行エージェントと連携し合宿者のニーズを考慮した柔軟な対応ができることをアピールし新規受け入れの確保に努めているほか、指導者間の情報提供や口コミによるリピート率の向上も施策展開に大きく寄与している。（リピート率 H28 年度 約 60%）

なおスポーツ合宿に係る予算として H28 年実績 579,888 円、H29 年予算 1,000,000 円で、経済効果としては、H28 年度実績 15,783,000 円、H29 年は更に伸びる事が予想されている。

3. 所 感

担当職員の方のやる気があり、人との繋がりを非常に大切にして、かつ有効的に保っておられる結果として稼働率・リピート率を非常に高く維持できている、という羨ましい状況であった。昨年 10 月に新施設「たるみずスポーツランド」がオープンする以前は、旧垂水中央運動公園のほかに市内の高校グラウンドを利用するなど合宿受け入れをしてきたにも拘らず、受け入れ数が着実に上がっていて成果が見て取れる施策展開に対して頭の下がる思いである。（参考：H28 年実績 26 団体 3,628 人受け入れ）

君津市では、今後学校統合が進み、空き公共施設がいくつか出てくることから、今回の視察を通して施設有効活用だけでなく、取り組みの仕方（ターゲットの選定・投資対効果・民間との連携）など、君津市にあった政策提案をしていきたい。

鹿児島県 曾於市

日 時：平成30年2月2日（金） 午前10：00から12：00

場 所：たからべ森の学校

出席者：曾於市議会議員 副議長 山田 義盛 氏

曾於市議会事務局 事務局長 濱田 政継 氏

たからべ森の学校 小野 公裕 氏

1. 曾於市の概要について ※（ ）内は君津市

人口：37,038人（85,604人） 面積：390.11km²（318.83km²）

一般会計：221億円（284億円） 議員数：20名（24名）

曾於郡大隅町、財部町、末吉町が合併し、平成17年7月1日に曾於市が誕生した。曾於市は鹿児島空港、宮崎空港まで約一時間の圏域にあり、鹿児島県東部、大隅半島の北部に位置し北は宮崎県都城市と接している。市の北部は大淀川流域に開け、都城盆地の一角をなし、南部は菱田川流域に広がる地域となっている。

2. 調査事項について

「元中学校を利用した民間企業による地域活性化事業・たからべ森の学校」について

「たからべ森の学校」とは、廃校となった中学校跡地を利用した幅広い世代の再就職を目的とした職業訓練校で、曾於市のホームページ制作を請け負っていた有限会社サイバーウェーブに運営委託し、民間が主体的に事業を行っている。

平成25年度より「農業人材育成科」を開講して市内で就農または農業法人に就農する地域定着型に取り組んでいる。その後、平成27年度から「調理実習科」と「農産加工販売科」を開講している。

「たからべ森の学校」における公共職業訓練「農業人材育成科」は15名が訓練期間6カ月でパソコン学習を取り入れた座学や元農林高校校長が講師となって実習を行っており、卒業生は新規就農者や農業生産法人へ就職している状況である。

3. 所 感

建物は、基本的にはもとの学校をなるべくそのまま残すというコンセプトであるが、訪問時は宿泊ができるように改装を行っていた。

「農業訓練育成科」と「調理実習科」は公共職業訓練であることから雇用保険の受給資格を有する者を訓練生として受け入れており、訓練期間中は雇用保険を受給しているため、生活に不安を抱えることなく、訓練が受けられる体制が整っていて非常に驚いた。

市外からの受講生は訓練期間中、近くの空き家が無償提供してもらい、空き家対策にもつながっている。また民泊の環境もあり、実際に曾於市に住んで、魅力を感じてもらい、移住・定住の推進を図っていた。また、グラウンドや校舎内を使用し、各種イベントを開催しており、地域住民と協力しながら、盛り上げていっていると感じた。

本市も「君津市学校再編第1次実施プログラム」が進められており、今後、空き校舎の利活用について、様々な議論が行われていくと思うが、「たからべ森の学校」のような活用方法があることを参考にしていきたいと思った。